へ13
3223
52

爲永春水作
一勇齋國芳画
あめ茶
なみ
八犬傳
十ノ編
下
上

へ 3
3223
52

生著述者は生博学ふ。綴りまつる一小冊を長題て假字読八犬傳と名付ん。
一時の戯墨あらず。伏姫富山ふ自殺は後ち荒口ちり飛び去りて
と侶ふ立消ちぬ。八ツの玉ちへ這策子きへ跡ちあくれ水ちなんかく思ひ
ちぬる文溪堂ぶ。煉獄あや歳々編数積りて十三編。六犬士出現して大坂八
大村二犬士の列傳ちへも遠ちぶ。遮莫嚮ふも言へちぶ。素りたちの
州子ふ。長く序どあ寸世ちの出ち成ちれど荒芽山は。ぼうきへ今い
解ちよちあ。髮ふ〻考ちれば。水滸傳の大筆ちる。軍旅攻伐ちる
ちる。羅子も学して看官侍り。先哲ちへ言えれ支あり。丹を短筆ふ徴は
業ふ。今ぶ三個は朋友ぶ。覧戦さへ草双紙ふ。同ド画組の重ねぶ
く困ド果ちる成。倘這ちふ編を重ねて毛野ぶ名ふ八百八人水陸三隊
は大合戦は。條ふ〻ぶ奈何やせん。と思ひふぐ〻も謄太く。稍這輯を編
果せちる。嘉永ふ祝ちふ。北の三稔に春は春ぶ
前年は睦月梅花中ふ筆を舐りて

辛亥春新鐫

柳北の春水誌

賊婦船虫

鷗尻の並四郎

一鎗刺過て並四郎野猪仕留牙に掛ら支る本文に委し

十二くんのつゞき

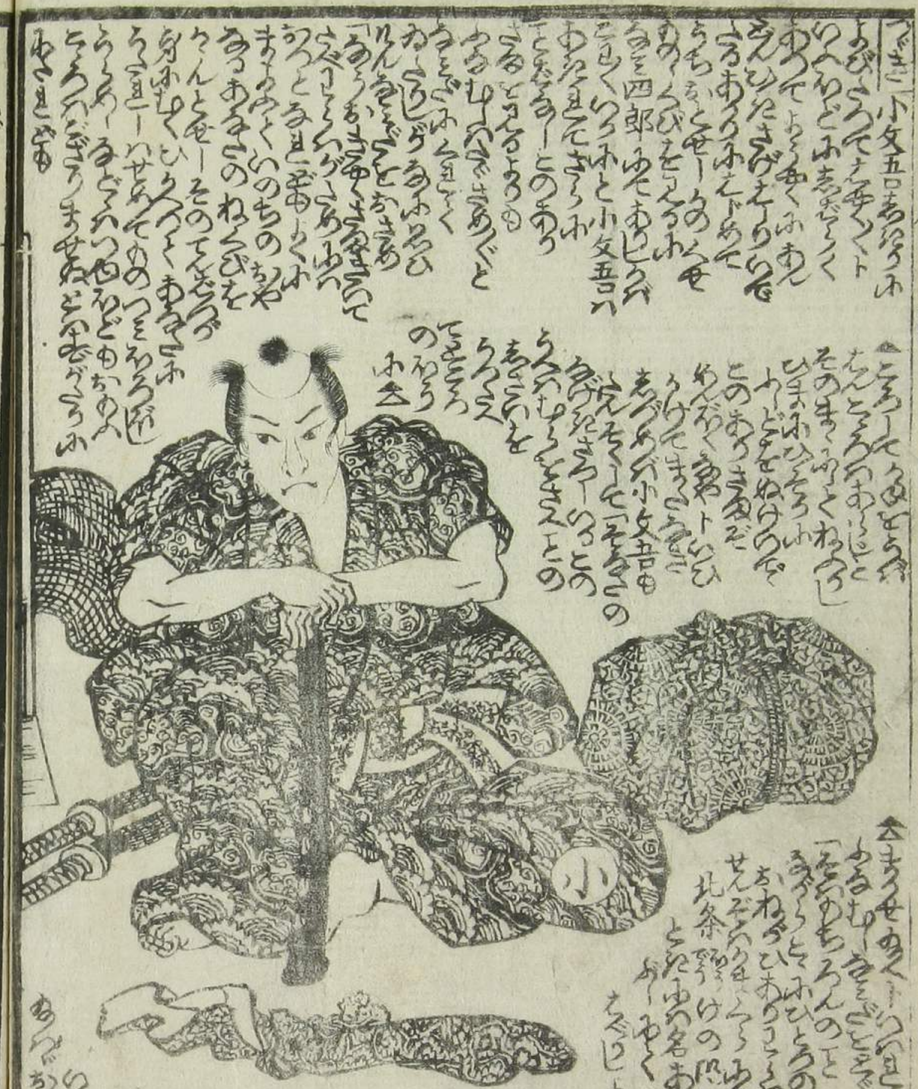
小

甲

國芳画

並

小


小

正

八犬傳三編
四の巻
小文吾
山里
三の巻
八犬傳三編

一勇齋國芳画

かぶよみ
八犬傳十四
下卷
爲永春水作
一勇齋國芳画
上卷

初雪や犬士足跡梅の花こゝ。誰ゞ詠句

知らぬまも手も
八房の名ゆ

ゆゑ其足跡を
なんぞ入る。

鳥は跡ゐるいろは文字。假名
讀菓子ゝ寫せも。梅の花ゐど
色香もゐ。初雪ゐ作文ハ淡雪
豆腐の淡々ゝ。醤油ゐ味淋酒ゐ
足らぬゆゑ青官は。ゆゑ合ぬと強ゐ。
又ゆゑ十四編ゐ後輯の仕込も
あれば。澤山ゆゑ遊ばせとゝ

嘉永辛亥孟春發兒

為永
春水誌

女田樂
あさけ
豆腐の
野

千葉介自乱
馬加大記常武
栗飯原首乱度

娘手枕
栗飯原夢之助
首ゲ妻稲城

大小文吾

十三編のつゞき

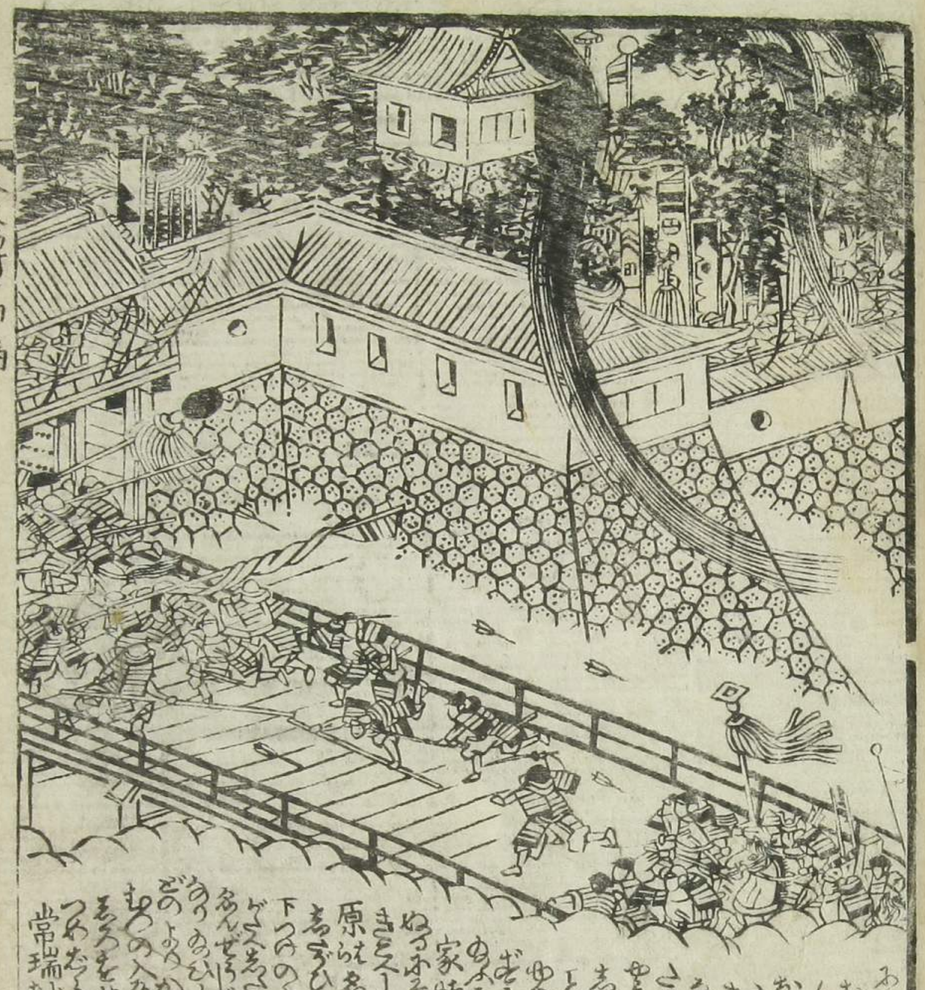
小

九

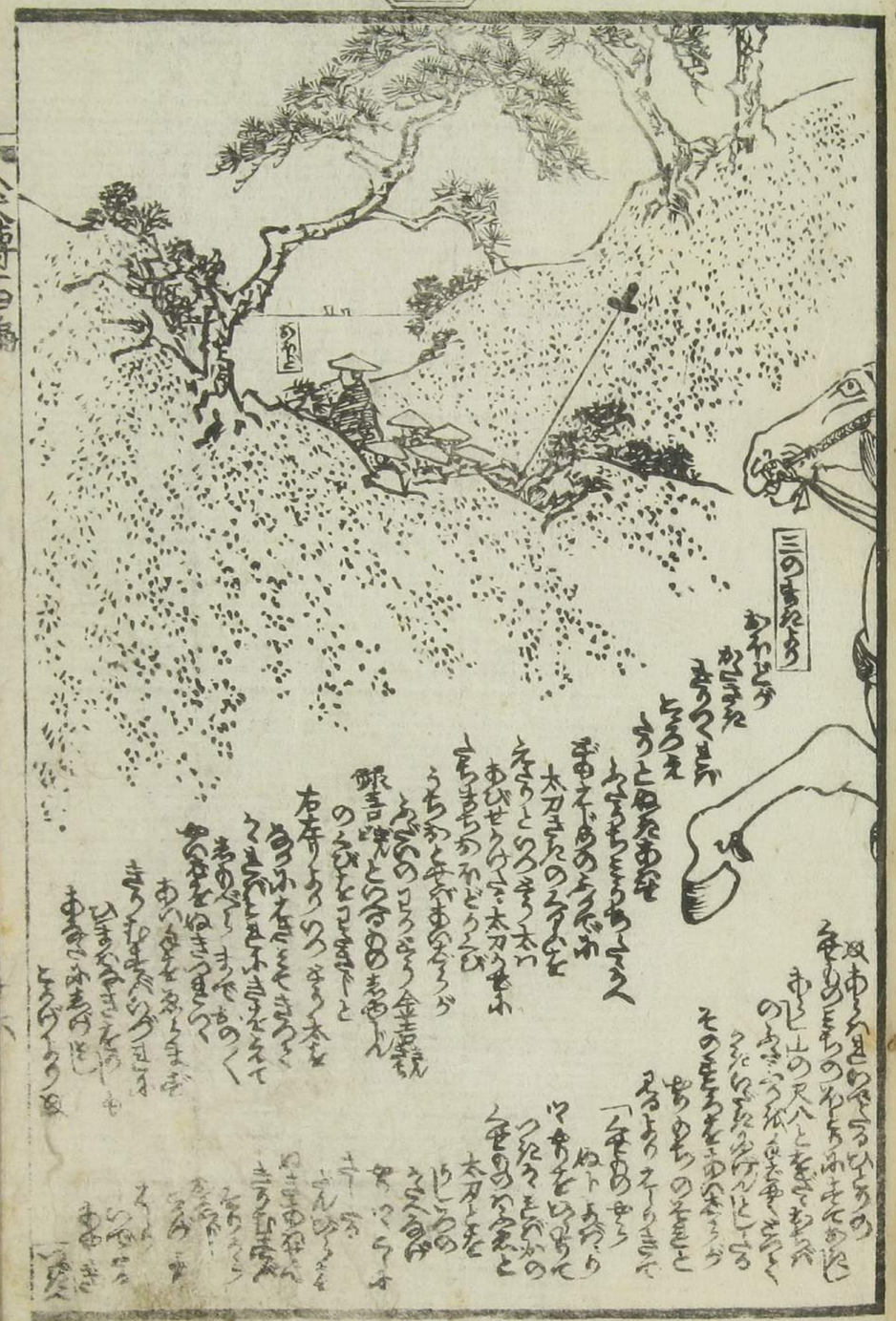
三の春くらべ

國芳画

三の巻
小女五ハ秋とそだをきとして
まさ立つるえるも
えやもよいちのべふ
ちるーうべ出
るるえるの
のうくゝみらまを
さうつとさく
ひとかそしふ
ちんつゝ
ゝよりまく
きさうーう
そのえのふ
品七ちるとそ
そーあとしろ
まのくへのを小女
九日をとしるべ
きめてのとまる
やうふうあるゆを
小女五日もまさ
ちべえをくるさべく
ふちやそのませよの
ちくのえるのめとめ
べくゝやそきてゆとふ
まえをとふくよろこび
やまをーとまをかるーゞ
ある日ちるを七八りきる
日ちべたをろのとるべ
るやまをふとてゐんべふ
人の引ちゝ出ろ
ら且をべくーとを
人情二十四編



國史畧


三のまんところ

金
首

銀

大記いとをつよくきわいじゲ

ちづのめ
くもの

八犬伝
十四篇
一勇斎国芳画

一勇斎國芳画